

## シリアの停戦合意崩壊

---

この数日に、シリアで起きた、大きな事について伝えたい。これに関しては、全容など何が起きているのか知らない人が多いと思う。ロシア、アメリカ、シリアで結ばれた停戦合意は、純粋な気持ちで話し合いに参加している国はなく、シリアにとっては、この機会に新たに軍隊をまとめ、攻撃手段を練るため、人道支援団体にとっては、シリア国民を助ける絶好の機会となった。しかし、わたしが伝えたいことは、9月17日に起こったことである。

シリアの砲兵隊が、ある空港そばの丘の上に座っていた。これは、アサドが、ISIS 拠点を攻撃するために使用している戦略上、とても重要な場所だったが、この空港防衛基地の問題は、周囲を ISIS の拠点に囲まれている点である。ここへの補給は、空輸以外の陸路には方法がなく、そこで、何か月も連合軍の飛行機がその山の上を飛行してきて、シリア兵も、それらがシリア軍の味方であることを知っていた。「彼らは ISIS を攻撃しているのであって、何も心配はいらない。」と。その日、連合軍、具体的にはアメリカ軍の飛行機が、いつもと違う行動をとるとは、兵士の誰一人疑いもしなかった。

そして、2機のF-16と2機のA-10が近付いてきた時も、誰も隠れようとせず、いつものように、ISISの拠点を攻撃しに行くのだらうと、おかしなことが起こっているとは誰も思わなかった。しかし、午前11時これらのアメリカ軍機は、爆弾を落とし始め、その攻撃は40分間続いた。そして、高官も含め90人以上のシリア人が殺され、他120人の兵士が負傷した。当然、彼らには避難する道はなく、そこから、シリアが支配する地方まで、飛行機で運ばれた。理解しておくことは、90人以上のシリア兵とは別に13人以上の、ヒズボラのテロリストが殺され、その場に放置された。なぜなら、シリア兵は他の軍制と手を組んでいる者を、誰一人として連れて行きたくなかったからだ。さらに、20人以上のイラン兵、7人のロシア兵もその爆弾で殺された。それ以外に、そこで妨害活動をしていたパレスチナ人も殺された。

よく考えてほしい。40分以内に、アメリカはシリア人、ロシア人、イラン人、それから、彼らを手伝っていたパレスチナ人を攻撃したのである。（これらをわたしはシーア派軸と呼んでいる）彼らは、いわゆる ISIS を攻撃しに行く途中だった。これを聞いたロシアは、国連に「アメリカは ISIS を援助している。」と伝えた。おそらく、彼らは知らないだろうが、その直後、ISIS の兵士たちは、シリア兵等の負傷兵の避難が終わると、すぐにその基地を占拠している。だから、爆弾を投下後、アメリカは ISIS の縮小ではなく、拡大を手助けしたことになる。夜にかけ、ロシアはその山と基地への爆弾投下を始め、その地域から ISIS を追い出そうとした。

わたしが、とても面白いと思うのが、この地域でロシア人とシリア人も疑問に持ち始めたということ。

「アメリカは、本当に ISIS と戦っているのか。一体どうなっているのだ。」

ここで、この幕裏の理解が大切になる。

アメリカは、この幕裏で、シリア停戦の件で、ロシア人がシリアをもてあそんでいることに、気づいたのである。ロシア人がしようとしている事は、基本的にはシーア派軸を作ることで、そうする事で、アサドが引き続き、シリアを支配する事を許可し、アサドの好きなようにさせる事。つまり、全ての敵を破滅させることである。過去5年の内戦の、全てはアサドの権力を奪うこと、そしてアメリカと、ロシアの停戦合意は、アサドに滞在する権利を与えるものだった。そして、ロシアがもてあそんでいる事

に、アメリカが気づいた時、わたしが思うに、この攻撃は、間違いでもなんでもなく意図的なもので、ワシントンから、モスクワへ送られてきたメッセージだった、ということ。「この停戦合意は、アサドに権力を握らせるものではない」と。

しかしながら、アサドは9月19日「いつもの通りの自然な形」で返答した。彼は、シリア軍によって破壊された街アレppoに、おもに食糧や医療品を運んでいた、国連の護送車を攻撃した。そのため、国連の15人のボランティアが殺害された。興味深いのは、国連安保理が、常にイスラエルの自衛の行い、一つ一つ全てに対して非難するが、ここでは、何百人という兵士や国連職員が殺されても、誰も言葉を発しないということだ。全体を見て、彼らのご都合主義には驚く。

知っていてほしいのは、シリアの第一線は白熱していて、もう一度言うと、ダマスコに常に目を向けていてほしいということ。この5、6月の間に、化学兵器の製造を禁じる立場の団体が発見したのは、オバマが、シリアとロシアとの間で結んでいた全ての協議、シリアから化学兵器を取り除くという協議は、3、4年前に結ばれたものだが、その協議は、何の意味も持っていないということだった。なぜなら、シリアは今日の今日まで、VXガス、サリン、マスタードガスの製造を続けている。それも、ものすごい量である。つまり、ダマスコは、中東最大の化学兵器貯蔵地で、引き続きそれを製造し続けている。世界はそれを理解しており、時が来れば（その時が来ることは、聖書が常に伝えているので、わたしたちはわかっている。）ダマスコは、イスラエルにとって直接の脅威となるのである。しかし、わたしたちイスラエルは、何もせずただ黙って見てはいない。イスラエルは、国連でそれを告げる。おそらく、9月21日にネタニヤフ首相がもう一度言うだろう。「我々は、自分たちを守るためならどんな事も行う。」

わたしが、常に説明する、この全体像の面白いところは、シリアの第一線の司令塔が、いずれエゼキエル38章、39章を成就させる攻撃をしかけるだろう、ということだ。わたしは、悲しくないし怖くもない。実際のところ、ワクワクしている。仮に預言者イザヤとエゼキエルが、2800年以上も前に、これらの事が起こるのを見ることができたなら、人の心を知り、人間の計画を知り、どれほど人間が悪であるかを知った上で、明らかに神が、彼らに明かされたのだから、彼らは、それを知っていた。そして、我々が神の計画を知るなら、これから何が起ころうとしているのかがわかる。我々は準備すべきで、今までにないくらい、真剣に主と歩み、時が近付いていることを知らなければならない。我々は、この終わりの時に、御父の仕事に励むために呼ばれたのである。ヨハネは言った。「小さい者たちよ、今は終わりの時です。」（Iヨハネ2：18）常に目を見張ってダマスコに目を向けておいてほしい。そして、これらの事が起こり始めるのを見たら、目を上げて、確かにわたしたちの贖いが近いことを知ってほしい。

シリアでのこの出来事は驚きである。そこで起こっている多くの事は、アメリカやヨーロッパ、他の世界では伝えられてはいないが、神に感謝なことに、わたしには、現地に非常に信頼できる情報源があり、実際に何が起こっているかを知ることができる。アラブ人も、何が起こっているのかはわかっているはずだが、アラブ人がアラブ人（同胞）に対して行っていることを、報道するのはあまりに恥ずかしくてできないのだろう。しかし、誰かが何かを言わなければならない。これらの情報源があり、みなさんに伝えられることを嬉しく思う。

どうか、シリアでひどく苦しんでいる人々のために祈ってほしい。両方からの攻撃、片方からはISIS、反対からはシリア政権が、樽爆弾をシリア市民の上に落としている。また、中東のクリスチャンたちのために、祈ってほしい。今までになかったほどの迫害が起こっている。神の御心が天で行われるように、地でも行われるように。（マタイ6：10）また、我々、神の民はただ執り成しのためだけに呼ばれたのではなく、ニュースを伝え、それぞれの人生で、準備を整えるためにも呼ばれている。目と

耳を開き、聖書に書かれている事に意識を向けよう。わたしたちが聖書を通して、すでに知っていることをメディアで確認する。メディアのほうが、皆さんに起こっていることを伝えることのないように。わたしは、メディアを「メディア人」と呼んでいるが、メディアは真実を知らせない。（メディア人とは旧約聖書ペルシャのクロス王に征服統合された民族。筆者の皮肉だろう）聖書だけが究極の真実で、2800年後の今でも最も正確な情報として見る事ができるのである。わたしは、絶対にメディアに自分の物の見方や状況に左右されない。ただ、自分がすでに知っていることを、メディアを通して確認するだけである。

最後に、ネタニヤフ首相が、現在国連演説とオバマ大統領と会見するために、アメリカに向かっている。多くの人に聞かれるのは、「どうしてネタニヤフ首相は、二国解決案に前向きなのか？」「どうして、アメリカがイスラエルに10年に亘って提供する、軍事支援にサインをしたのか？」まず、二国解決案はただの策略にすぎず、パレスチナが、解決策に反対しているのだから、そんなものは存在しない。これは、1947年に国連によって出され、彼らが拒絶した解決策である。基本的に、二国解決策はアラブ人国、ユダヤ人国とのことで、パレスチナ人はユダヤ人国には賛成しない。「アラブ人国はよい。アラブ人国家ならよい。」と考えている。しかし、イスラエルはユダヤ人国家と呼ばせず、ユダヤ人だけの国ではなく、ユダヤ人とアラブ人のものであるべきと考えていて、パレスチナ人は「自分たちの領域はアラブ人のみ」と考えている。これが、ご都合主義で、彼らはすでに、西岸地区に住んでいて、ユダヤ人はそこに住むことを許さず、我々には、我々の領域にいるアラブ人をそのままにするよう要求する。これは、二国解決策が成立しない様にするただの策略である。協議を台無しにするのは、いつもアラブ人側で、相手がいつも反対することがわかっているから、この解決策に合意するほうが我々にとってはずっと良いのである。

また、イスラエルが、アメリカの政権と調印した、軍事支援について理解しておくべきことは、イスラエルは、トランプ氏についてよく知らず、彼は誰にとっても謎であるということである。事実、これまで言ってきた事の大半は、他国を援助せず、これまでアメリカが与えたものを全て返すように要求している。それだけでなく、彼が選ばれるかどうか我々にはわからない。それプラス、この協議は2018年から開始されるが、その時までには様々な事が起こり得る。だから、全てを宙に浮かせたままで、後の大統領から何ももらえないより、今調印するほうが良い、というのが基本的な理由なのだ。それが、吉と出るか凶と出るかは時が来ればわかることで、いずれ、イスラエルは孤立し奮闘することになる。もう、すでにそうなっている。我々イスラエルの事は、神が面倒みてくださると信じている。

ということで、皆さん、イスラエルを支えて下さり感謝している。しかし、心配しないでほしい。全ては、神のコントロールの範囲内である。神は驚くような事をされていて、と言うより、驚くようなことが起こることを許され、全てが神の計画通りである。ISISも、ロシアも、ホワイトハウスも、神の支配下から逃れることはできない。感謝なことに（当日LIVEで）158人以上の人が、現在動画を観ている。さらに、皆さんが多くの人とこれをシェアされるよう祈る。前回のLIVEメッセージでは、5万人以上の人に視聴され、その前は、1万3千人。メッセージが広がり、神の人々に真実が開かれることをとても嬉しく思う。God bless you! Shalom!

このメッセージは BEHOLD ISRAEL のイスラエル在住メシアニックジャーナル Amir Tsarfati 氏が公開したメッセージをアメリカ在住の日本人クリスチャン言波さんが翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。リアルタイムで知りたい方は、BEHOLD ISRAEL（英語）、「神さんの言うとおり」（日本語）を検索してください。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにしてはならない。」ヘブル 4：7 はこの声に聴き従います。目の異常でパソコン作業に非常に困難を覚えている私のためにもお祈りください。

メッセージ by Amir Tsarfati/Behold Israel : <http://beholdisrael.org/>

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Ryoku